

投資事業評価調書(新規)

部課室名	砂防課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	砂防課長 上野 勉 (木戸 徹)	内線	4459 (4465)
------	-----	---------------------	-----------------------	----	----------------

事業種目	砂防事業	事業名	事業区間	総事業費	約2.1 億円
		通常砂防事業 くらたに 倉谷川		内用地補償費	約0.1 億円

所在地	事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
朝来市 生野町 <small>とちはら</small> 栃原	18年度	18年度	21年度

事業目的	事業内容
土石流災害対策 ・流域の荒廃が進み、上流から生産される土砂により下流民家等への洪水被害の危険性が高まっているため、えん堤工を設置して地域住民の人命、財産、(主)一宮生野線、市道及び災害時の指定避難所である栃原体育館を保全する。	・砂防えん堤工 1基 (H = 14.0m, L = 75.0m) [負担割合 国: 1 / 2、県: 1 / 2]

評価視点	評価結果の説明
------	---------

(1)必要性 安全・安心	・倉谷川は1次谷を呈し、(土石流危険渓流)に準ずる渓流である。 ・溪岸の浸食が進むなど流域内も広範囲に荒廃しているが、砂防設備は未整備である。 ・保全対象: 人家 = 20戸、公共施設 = (主)一宮生野線、市道、栃原幼稚園、栃原保育所、栃原体育館(避難所)、栃原区集会所、消防団詰所、田畑 = 7.15ha
地域の活性化	・砂防えん堤工事により土砂災害の危険性が軽減され、地域の主要な生活道路である(主)一宮生野線を保全することにより、地域間の交流に一層寄与する。
快適性・ゆとり	・えん堤設置により上流からの土砂生産を抑制し、下流域への土砂氾濫を防止することにより、下流域の住民に安全で快適な生活空間を提供する。
その他	・地元の土砂災害に対する認識度も高く、事業化への要望が強い。 ・豪雪地帯対策指定地域に該当し、えん堤工の整備により条件不利地域の安全性向上に寄与する。
(2)有効性・効率性 有効性	・人命・財産(人家20戸)及び地域の主要交通網である(主)一宮生野線、市道、災害時の指定避難所である栃原体育館、災害時要援護者施設である栃原幼稚園、栃原保育所が保全されるので、事業実施による投資効果は大きい。
効率性	・市等の協力体制が整っており、円滑な事業執行が可能である。
(3)環境適合性	・県道等からの視認性を考慮し、化粧型枠等により周辺景観に配慮する。また、工事による法面については緑化を図るなど環境保全に努める。
(4)優先性	・被害想定区域には人家20戸、(主)一宮生野線、市道及び災害時の指定避難所である栃原体育館、災害時要援護者施設である栃原幼稚園、栃原保育所がある。 ・平成16年8月の台風16号豪雨により下流へ土砂が流出し、河道が埋塞しており、流域の荒廃が激しく進み、土砂流出及び浸水被害の危険性が高く、栃原地区の人命・財産等を保全するため早急な対策が必要である。